

★鑑賞文を書くとき、鑑賞するものをより深く味わうことができます。国語の学習では短歌や俳句、詩などの鑑賞文を書くことが多いですが、音楽や絵画、工芸品などの芸術作品の鑑賞文もあります。鑑賞文の書き方を学んで、作品をより深く鑑賞しましょう。

やってみよう

◆ 次の短歌と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

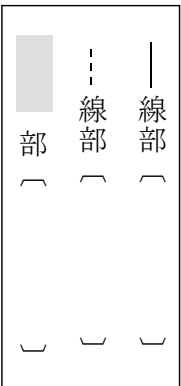
金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の丘に 与謝野晶子

《鑑賞文》

「金色の小鳥のかたちのような銀杏の葉が、舞い散っている。真っ赤な夕日に照らされている丘の上で。」とよんだこの歌は、四句切れで倒置法を用い、舞い散る黄金色の銀杏の葉と、真っ赤な夕日の色の対照を印象付けている。私はこの歌の銀杏の葉を金色の小鳥にたとえているところが好きだ。晩秋の落葉のものの悲しさをぬりかえる明るい躍動（やくどう）感があるからだ。この歌をよむと、気持ちが沈んでいるときにも元気をもらえようような気がする。

一 《鑑賞文》の — 線部、 - - - 線部、 (網掛け) 部は、それぞ

れどんなことを書いたものか。それぞ  
あとのアからエの中から選んで  
記号で書きなさい。



- ア 短歌の大意（だいたいの意味）
- イ 表現の特徴と受ける感じ
- ウ 作者について説明
- エ 自分の感想

二 右の《鑑賞文》を参考にして、次の短歌の鑑賞文を二百字程度で書きなさい。

「草わかば色鉛筆の赤き粉の散るがいとしく寝て削るなり 北原白秋」

Handwriting practice grid with 10 columns and 10 rows. The first two columns are labeled '200字' and '180字' at the bottom. The last two columns are labeled '100字' at the bottom.

200字 180字

100字